

平成 13 年度 灘のけんか祭り

松原八幡神社秋季例大祭



~ 東 山 ~

10月14日 - 宮入

・旧梶松前から楼門

東の方から太鼓の音，練り子の威勢の良い掛け声とともに，子供たちの勇ましい声が聞こえてきました。これからいよいよ平成13年度「灘のけんか祭り」の幕開けです。東山青年団の若衆による壇尻幟を先頭に，ピンクの鉢巻もりりしく東山子供会の子供たちに引かれて壇尻が走ってきました。東山は，雄獅子と雌獅子の二頭の獅子と，毛獅子の合計三頭の獅子を保有しています。壇尻の上には毛獅子が踊り，壇尻の引き綱の中では，雄獅子が勇壮に「荒舞」を舞っています。この「荒舞」は，灘祭りの初宮入の悪霊払いになっています。続いて大幟が楼門横に到着し，太鼓の響きも大きくなっていきます。

いよいよ東山屋台の宮入です。

・楼門前から西向き

ただ今，宮入が終わりました。社殿内では壇尻から抜け出した獅子が，末社巡りを行っています。これは，本堂周囲の小宮堂に，東山屋台の到着を報告し，祭礼の無事を祈っているものです。この後，屋台が社殿内に据え置かれますと，今度は雌獅子が拝殿で古式ゆかしく「地舞」を奉納致します。

・楼門をくぐり社殿内で擬宝珠を付けているところ

皆さん，東山屋台の屋根の紋章をご覧ください。

左右は松原八幡神社所縁の「左三つ巴」で，前後が金色に輝く「千成瓢箪」であります。明治以前は，菊の紋章でしたが，明治時代になり，皇室の紋章を避けるため，この「千成瓢箪」に改めたもので，東山の先人達が太閤秀吉の馬印にちなんで，十二の瓢箪を菊の御紋に仕立てたものです。

ひとつの木から掘り込み，漆塗りの上に金箔をあしらったこの紋章は，全国にも例がなく，東山独自のものとなっています。この「千成瓢箪」は，とおくからでも一目で識別でき，東山屋台の大きな特徴のひとつです。

今年，東山は伊達綱と本棒を新調しました。本棒は樹齢三百五十年の木曾檜です。

どうか皆さん，この装いを新たにした東山屋台の勇壮な練りとともに，祭りを十分堪能して下さい。

・拝殿前から末社巡り

東山は，かつて，祭礼儀式の主宰者，いわゆる社人の住んでいたところでした。社人達は，数々の迫害にあいましたが，この灘地区住民の温かい支持を得て，伝統ある灘祭りを続けてきました。その関係から，東山が宮本と呼ばれています。

そのために，拝殿に据えられている神輿の提灯，拝殿の提灯や，明日に行われる御旅山へ

の神官渡行の時の祭礼の幟には、東山村の名前が入っています。
今年も、先人達の実績を誇りをもって、東山の若者達は、勇壮、華麗に屋台を練り続ける
ことでしょう。

以上で東山の紹介を終わります。

10月15日 - 宮入

・旧梶松から楼門

灘祭りの本宮の初宮入に、悪霊払いの荒舞が、幟が進みます。

獅子が舞ってきました。いよいよ東山屋台の宮入です。

本日、夜が開けやらぬ午前5時、祭典役員一同は集合しました。8時より朝露を踏んでの到着です。さあ！これから日没を過ぎるまで。灘祭りの本宮の開幕です。

・楼門前から西向き

東山の紙手は、ご覧の様にピンクです。若き情熱の色となっております。その中に八本の赤い紙手があります。この赤い紙手を持つのは、この祭礼の中心的な役割を持つ取締の皆さんです。東山屋台を統括しているのは総代さんですが、最近はこの僅か8名の取締が、祭礼の計画、準備から、本日の屋台運行まで、その一切をすべてを進めています。この8名の取締は、屋台から片時も離れることはしません。そして、安全に、楽しく、勇壮に、祭礼が運営されるよう心血を注いでいます。昨年の祭りが終わってからこの日が来るまで、四六時中祭りのことを考えて、準備に準備を重ねてきた8名の取締です。

こうして、一年、また一年と、この伝統ある祭りを引き継いでいくのです。

・楼門をくぐり社殿内で擬宝珠を付けているところ

皆さん、東山屋台の屋根の紋章をご覧ください。

左右は松原八幡神社所縁の「左三つ巴」で、前後が金色に輝く「千成瓢箪」であります。

明治以前は、菊の紋章でしたが、明治時代になり、皇室の紋章を避けるため、この「千成瓢箪」に改めたもので、東山の先人達が太閤秀吉の馬印にちなんで、十二の瓢箪を菊の御紋に仕立てたものです。

ひとつの木から掘り込み、漆塗りの上に金箔をあしらったこの紋章は、全国にも例がなく、東山独自のものとなっております。この「千成瓢箪」は、とおくからでも一目で識別でき、東山屋台の大きな特徴のひとつです。

今年、東山は伊達綱と本棒を新調しました。本棒は樹齢三百五十年の木曾檜です。

どうか皆さん、この装いを新たにした東山屋台の勇壮な練りとともに、祭りを十分堪能して下さい。

10月15日 - 広島

みなさん、こんにちわ。これから東山屋台の紹介をさせていただきます。

獅子が舞っています。中学生に囲まれた幟が進みます。

いよいよ東山屋台の御旅山への登場です。

皆さん、棧敷席より金色に輝く擬宝珠をご覧ください。平成六年に新調されたもので、江戸時代の終わり頃、大阪の天満宮より大金を投じて買い入れたという、それまでの擬宝珠にまつわる言い伝えにもとづいてつくられたものです。純銀の宝珠部と、波に千鳥をかたどった純銀の伏鉢からなっており、伏鉢には、純金、純銀の千鳥十二羽をちりばめております。

五条大橋の牛若丸、安宅の関の弁慶が彫りこまれている路盤より垣間見る、金の波模様の美しいこの擬宝珠は、「人間技とは思えない国宝級の美術品」に仕上がっており、まさに昔の姿に復元されています。

東山屋台独自のもので、本当に豪華で見飽きない屋台になっております。

今年、東山は伊達綱と本棒を新調しました。本棒は樹齢三百五十年の木曾檜です。

東山の紙手は、ご覧の様にピンクです。若き情熱の色となっております。その中に八本の赤い紙手があります。この赤い紙手を持つのは、この祭礼の中心的な役割を持つ取締の皆さんです。東山屋台を統括しているのは総代さんですが、最近はこの僅か8名の取締が、祭礼の計画、準備から、本日の屋台運行まで、その一切をすべてを進めています。この8名の取締は、屋台から片時も離れることはしません。そして、安全に、楽しく、勇壮に、祭礼が運営されるよう心血を注いでいます。昨年祭りが終わってからこの日が来るまで、四六時中祭りのことを考えて、準備に準備を重ねてきた8名の取締です。

こうして、一年、また一年と、この伝統ある祭りを引き継いでいくのです。

最後に、東山屋台の屋根の紋章をご覧ください。

左右は松原八幡神社所縁の「左三つ巴」で、前後が金色に輝く「千成瓢箪」であります。明治以前は、菊の紋章でしたが、明治時代になり、皇室の紋章を避けるため、この「千成瓢箪」に改めたもので、東山の先人達が太閤秀吉の馬印にちなんで、十二の瓢箪を菊の御紋に仕立てたものです。

ひとつの木から掘り込み、漆塗りの上に金箔をあしらったこの紋章は、全国にも例がなく、東山独自のものとなっております。この「千成瓢箪」は、とおくからでも一目で識別でき、東山屋台の大きな特徴のひとつです。

どうか皆さん、東山屋台の勇壮な練りに一層の声援をお願いします。

この東山は、朝露のまだ上がらない早朝から練上げ、夕闇の中に照明が映えるまで、練りつづけます。夕闇の中に光り輝く屋台の姿は、格別の趣があるものです。
みなさん、最後までゆっくりと、ご観覧下さい。

以上で東山屋台の説明を終わります。